えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報　第164号	２０１５年3月２３日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠

１．活動報告（　事務局　記）

―２月２８日（土）竹林調査の為、竹を伐採しました。参加者は関根・前田・吉富会員でした。

―３月１日（日）前日切り出された竹を運搬し、止水池とため池の土手修復用シガラとして工事しました。また、止水池のエコアップ(イグサとこうほねの間引き）も行いました。
参加者８名でしたがにぎやかな活動となりました。

―３月１４日（土）湿地帯のエコアップ（島周囲のスゲ草間引きと前回の間引き集積スゲ草運搬）とため池周囲の孟宗竹による池淵の整備を行いました。湿地帯・ため池や蓮田の周囲がきれいに整備されました。
参加者は１１名で、２６年度最後の活動でした。

２．今後の予定（　事務局　記）

◎見学者

―３月２８日（土）二俣瀬　町づくりサークルの“二俣瀬史跡ウオーキングツアー”で「ビオトープ」「昭和山遊ロード」含む男嶽の登山があります。
清瀬峡・一里塚・宇部市指定名木ナツツバキ・男嶽から３６０度願望・昼食後、帰路昭和山登山道を経由でふれあいセンターに戻ります
総ウオーキング距離は**７ｋｍ　約３時間**、原田マが全案内をします
９時に二俣瀬ふれあいセンターを出発します。参加如何ですか？

◎行　事

―４月４日（土）平成２７年度総会

―４月１８日（土）親子自然観察隊　９時　ふれあいセンターで決隊式後ビオトープに移動して「食べられる野草」の行事です。
たけのこ・ヨモギ・ツクシ・イタドリ・セリそのほかのたくさんの食べられる野草を採取して、勉強をして天婦羅で食べます。昨年収穫したもち米とヨモギで餅つきも行います。

３．来訪者の声

今月はありません。

４．会員の声【 活動日の年寄りの会話 】　（　原田滿洲夫　記）

最近当会の活動日もさることながら、退職会・同窓会・自治会の集まり・更には２～３人以上の集まりがあると話の３分の２以上は必ず身体の具合（体調）の話になる。

やれ腰が痛い・痛風である・腕が上がらない・膝が痛い・血圧が高い・白内障・歯が抜けた等々。次に来るのが“お前もそうか？わしもそうじゃ！”でつまらない話の受け継ぎが始まる。　次はあの薬が良くきく・何のサプリが良い・どこのお医者に通っているか？何処どこのお医者が良い・こんな体操をすると良い・などと話が弾む。弾むだけではない。話の中に割り込んで自分の体調不良の自慢話となって、もつれた蜘蛛の糸のように話がまとまらない。活動日に段取りで早目に参加すると近くの会員がおいおい参集してくるがまずこの話から始まってくる。暖を取るための焚火や会員の座る場所作りながら煙の間をくぐって体の痛い話が始まってくる。後から参加して来た会員がその話の続きに入り込む。

９時にようやく会長または副会長の始まりの挨拶が始まると、これらの話は一応影を潜む。おそらく３０～４０年前にはもっと寿命も短くてこんな話をする前に人生が終わって愚痴を話すチャンスもなかったのだろうか？それを考えると、こんな話が出来る事が幸せであると考えなければいけないのだろうか？お互い健康寿命で活動したいものである。

５．ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」　（　管　哲郎　記）

(27) ホンサナエ　*Gomphus postocularis* Selys

サナエトンボ科　Gomphidae　＜ホンサナエ属＞　*Gomphus* Leach

体つきの著しくずんぐりしたトンボ。日本特産種で、全国に分布していますが局地的。宇部市の厚東川にも生息していますが、厚東川の中でもやはり局地的でどこにでも見つかるとは限りません。あるきまった場所でないといないようです。ビオトープを通る須賀河内川では確認できていません。

大きな河川の中流域にすんでいるようで、５月～７月ごろに見られます。オスは河川敷の石や砂利の上、流れの中の岩の上や石の上に縄張りをもってメスの来るのを待っていますが、メスは産卵するときに流れの中に飛来しますが、それ以外は川の近くの樹木の枝などで休んでいます。メスはなかなか見つかりません。

筆者もこのトンボの写真は多く持っていませんので、今年の撮影課題にしようと思っています。皆さんも初夏、ぜひ探してみてください。

♂休止（厚東川）

♀休止（厚東川）

６．会よりの連絡事項

１）親子自然観察隊の隊員募集が終わり、１１家族１６名の子供隊員と親子合わせて計２７名の隊員で４月より活動されます。

２）親子自然観察隊を独立活動組織に変更する手配中です。２７年度総会において親子自然観察隊の規約改正やビオトープをつくる会の規約改正が生じてきました。今までの「つくる会のしおり」等をよく把握して意見を述べてください。

７．編集後記

急に春めき出した。つい数日前まで着ていた冬服が重く感じられ、今日は朝から洗濯に励んでいた。お天気がいいので、洗濯がすすむのが気持ち良い。

ビオトープではカエルの赤ちゃんのおたまじゃくしが生まれ、水たまりの中をチョロチョロと泳いでいる。

平和な風景にほっとする。日常の何気ないこんな風景が、このうえもなく愛しいと感じられるのは、自分もそれなりに年を取ったということか。

昨日の新聞に、自民党と公明党が合意した安全保障法制では自衛隊の海外活動が大幅に拡大するとあった。私たちの日常とはかけ離れた世界で、政治はどんどん変化してきている。秘密保護法の制定、集団的自衛権、憲法改正の動き。

私たちの日常が、子どもたちの未来が、これからも脅かされない社会であって欲しいと願うばかりである。

（　中本　亜矢子　記　）